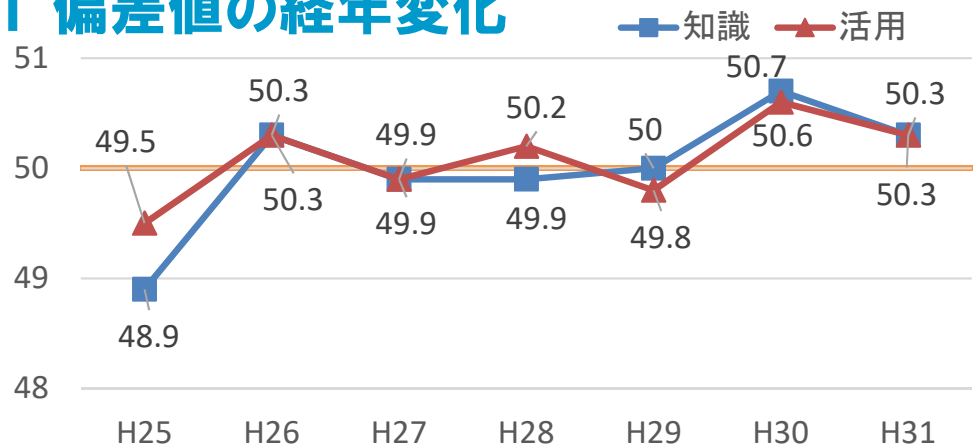


結果のポイント

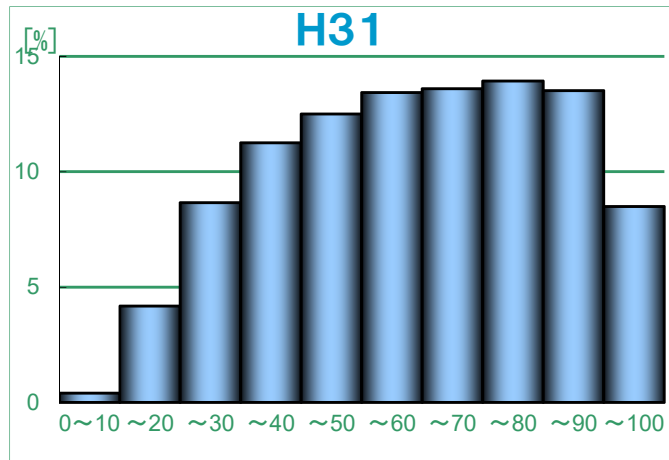
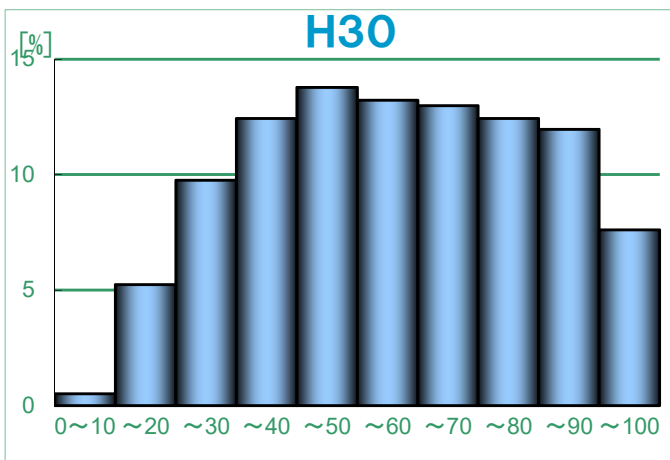
1 偏差値の経年変化



○知識・活用ともに偏差値50を超えている。

▲偏差値50を超えているものの、H30に比べて知識は0.4P、活用は0.3P下がった。

4 正答率度数分布の変化



2 領域別の結果

領域	正答率	目標値	偏差値
聞くこと	71.6	71.0	50.1
読むこと	58.5	62.1	49.9
書くこと	50.8	50.8	50.8

○「聞くこと」、「書くこと」の領域は偏差値50を上回っている。

▲「読むこと」の領域は偏差値50を0.1P下回っており、目標値に対する正答率も3.6P下回っている。

3 観点別の結果

観点	正答率	目標値	達成率
外国語表現の能力	46.0	45.0	50.8
外国語理解の能力	65.1	65.3	49.8
言語や文化についての知識・理解	56.1	59.6	50.5

○「表現の能力」「知識・理解」は偏差値50を上回っている。

▲「理解の能力」は0.2P、「知識・理解」は3.5P、目標値を下回っている。

○正答率30%以下の生徒が減少している。

○H30は正答率41~50%の層が最も多かったが、H31は正答率71~80%の層が最も多くなっている。

■ 課題が見られた問題と指導の改善

1 正答率が低かった問題

大問2(2)(正答率47.8%・目標値65.0%)

対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題

大問7(4)(正答率18.1%・目標値30.0%)

読み取った内容をふまえて、英文を完成させる問題

- ▲何を問われているかは聞き取れているが、受け答え方を理解していない。
- ▲対話の流れに合った英文を、適切な表現を用いて書くことができていない。

指導の改善

- 基本的な語彙や場面に応じた応答の仕方については、教師と生徒、生徒同士のやり取り等を日常化し、指導の際に、目的や場面、状況を設定した言語活動の中で、様々なやり取りを通して、答え方には色々あることを学ばせる。また、やり取りの後には、自分の表現した内容を書かせる。
- 読んだ内容について、自分の考えや得た情報を自分の言葉で述べたり、書いたりするなどの活動を習慣付ける。

2 無解答率が高かった問題

大問9(1)(正答率18.8%・無解答率32.2%)

対話の流れから、英語でどう質問しているのかを英文で書いて答える問題

大問4(正答率29.7%・無解答率23.5%)

聞かれたことに対する応答を英文で書いて答える問題

- ▲対話の流れに合った英文を、適切な表現を用いて書くことができていない。

指導の改善

- 中学1年生の教科書素材文など、これまでに習った対話文の一部を空欄にし、そこに入る内容を考える活動を仕組む。その際、書く活動だけでなく口頭で答えるなど、聞く・話す活動を通して英文の意味を理解しながら書くことの活動を行うようにする。
- 会話文に限らず、文脈に沿った内容を自分の言葉で表現できるようになるためには、単に英文1文の意味を理解するのではなく、その文が使われる場面を意識しながら話の流れ全体を理解する必要がある。聞いたり、読んだりした内容をしっかり理解した上で、「書くこと」の活動につなげる技能統合型言語活動に慣れ親しませる工夫が求められる。